

平成26年度の決算数値がまとまりました

健保を取巻く状況

健康保険組合全体の財政状況ですが、健保連(健康保険組合連合会)の「平成27年度健保組合予算早期集計結果の概要によると、平成27年度の経常赤字は1,429億円、平成20年度の高齢者医療制度の創設以降8年連続の大幅赤字となりました。全組合中の約7割にあたる945組合が赤字を計上しました。なお予算早期集計は、全1,403健保組合の98.6%に相当する1,384健保組合の予算状況を全組合ベースに引き伸ばし推計したものです。

赤字額は、前年度予算(▲3,683億円)に比べ、254億円縮小しましたが、これは賞与額、標準報酬月額の上昇や保険料率の引き上げ等により保険料収入が2,259億円増加した一方、支援金・納付金の精算分(戻り)や退職者給付拠出金の減少で、支援金・納付金総額が254億円減少したことが影響しています。支援金・納付金の保険料収入に対する割合は43.68%で、割合が50%以上の組合は305組合でした。

保険料率を引き上げた組合は、全組合の約2割にあたる316組合で、平均保険料率は9.012%と前年度比0.159ポイント上昇しました。平均保険料率10%以上の組合は285組合に増加しています(前年度255組合)。赤字を出さずに収支均衡を図るために必要な実質保険料率は9.499%となっています。

健保連は、今後の健保組合財政について、「団塊の世代の高齢化に伴う高齢者医療費の増大や後期高齢者支援金の総報酬割部分が増大されることにより、支援金・納付金負担が重くなることは確実である」との見通しを示しました。さらに「支援金・納付金の増加に対する

負担軽減措置が必要であるとともに、高齢者医療の負担構造改革が不可欠である」と制度改革の必要性を強調しています。

決算の内容

(決算にあたっての基礎数値)

平成26年度予算では平均被保険者数2,247名、平均標準報酬月額345,361円を見込んでおりましたが、全事業所の年間平均被保険者数は2,373名男子1,560名、女子813名、平均標準報酬月額は、339,141円男子375,673円、女子267,038円(前期高齢者医療費の対象者(年間平均)は39名でした。平成27年3月末の被保険者数は2,466名、被扶養者数は、1,173名(扶養率0.48)でした。

また介護保険では、第2号被保険者たる被保険者数(40歳以上65歳未満)は532名、平均標準報酬月額412,869円を見込んでおりましたが、第2号被保険者たる被保険者数は年平均で570名、平均標準報酬月額は409,483円でした。

(一般勘定について)

◆収入

◇一般勘定の収入総額は、1,342,189千円で、前年度比230,613千円の増加、予算額の103.8%、被保険者1人当たりでは565,609円でした。

◇この内訳ですが、健康保険料収入は1,000,885千円で予算額の104.6%、1人当たり421,780円となりました。

平成26年度収入支出決算概要表

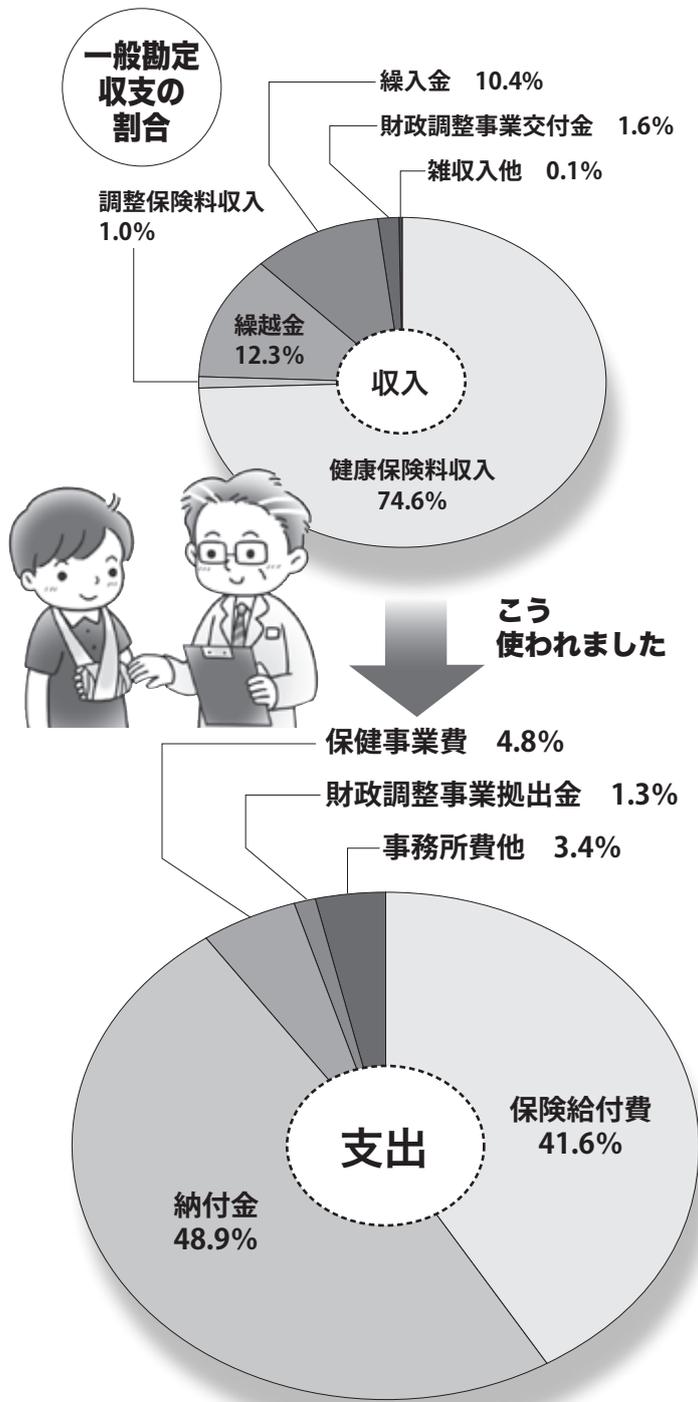
一般勘定

●収入

科目	金額 (単位:千円)	科目の説明
健康保険料収入	1,000,885	健保組合運営の財源として皆さんと事業主に納入していただきました
調整保険料収入	14,032	健保組合間の財政面における助け合い原資となる別枠保険料
繰越金	164,578	前年度の収支残金処分を、当年度に繰越して使用した金額
繰入金	139,610	別途積立金を取り崩した額です
国庫補助金収入	244	国からの、保険給付費等への補助金
財政調整事業交付金	21,559	健保組合の高額医療費補助として、健保連から交付金を受けています
雑収入	1,281	受取利息や拠出金の精算金です
収入合計	1,342,189	

●支出

科目	金額 (単位:千円)	科目の説明
事務所費	34,906	健康保険組合を運営するための経費として使用します
保険給付費	437,467	皆さんがお医者さんにかかる医療費や各種の給付金で、国が決めた法定給付と健保独自の付加給付があります
納付金	515,039	75歳以上の医療のための「後期高齢者医療制度」、65～74歳の「前期高齢者納付金」等のために健保が支出します
保健事業費	50,207	保健指導宣伝費(社会保険ガイド、健保だより、電話健康相談他)、疾病予防費(健康診査費他)に使用します
財政調整事業拠出金	14,028	健保組合間の財政面における助け合いのため、健康保険組合連合会への拠出金です
その他の支出	876	健康保険組合連合会に支払う年会費等です
支出合計	1,052,523	



◇調整保険料収入は14,032千円で予算額の104.5%、1人当たり5,913円、前年度繰越金は164,578千円、1人当たり69,354円となりました。別途積立金からの繰入れは139,610千円、1人当たり58,833円となりました。

◇国庫補助金収入は244千円で1人当たり103円、財政調整事業交付金は21,559千円で1人当たり9,085円、雑収入は1,281千円で1人当たり540円となっています。

◆支出

◇支出総額は1,052,523千円で、前年度比134,207千円の増加、予算額の81.4%、1人当たり443,541円(対前年度比36、125円の増加)でした。

◇事務所費は34,906千円で予算額の92.6%、所要財源率千分の3.24、1人当たり14,710円でした。

◇保険給付費は437,467千円で、予算額の86.1%、所要財源率千分の40.53、1人当たり184,352円でした。このうち法定給付費は426,733千円で、1人当たり179,828円、付加給付費は10,734千円で、1人当たりでは4,523円でした。

◇納付金は515,039千円で、所要財源率千分の47.71、1人当たり217,041円となり、その内訳は前期高齢者納付金292,404千円、後期高齢者支援金183,708千円、退職者給付拠出金38,924千円、老人保健拠出金3千円でした。

◇保健事業費は50,207千円で、予算額の83.5%、所要財源率千分の4.66、1人当たり21,158円でした。

◇財政調整事業拠出金14,028千円、その他の支出合計は876千円となりました。

◇この結果、法定給付費等に要する保険料率は千分の

介護勘定

●収入

科目	金額 (単位:千円)	科目の説明
介護保険収入	52,077	介護保険の財源として皆さんと事業主に納入していただきました
繰越金	2,144	前年度からの繰越金
雑収入	1	
収入合計	54,222	

●支出

科目	金額 (単位:千円)	科目の説明
介護納付金	44,898	介護保険財政をまかなうために国に納付金の形で支払います
介護保険料還付金	22	
支出合計	44,920	

(介護勘定について)

収入は介護保険収入520,077千円、繰越金2,144千円でした。支出は、介護納付金44,898千円でした。

*介護勘定は収入合計54,222千円、支出合計44,920千円、差引残高9,302千円となりました。準備金として156千円を積み増し、次年度繰越金として、9,146千円を繰越し、平成26年度の事業を終了しました。

87.24、実質保険料率は千分の95.99となりました。

*以上のとおり一般勘定は収入合計1,342,189千円、支出合計1,052,523千円、差引残高289,666千円となりました。

次年度繰越金として残金全額289,666千円を繰越し、平成26年度の事業を終了しました。